

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○物語において、その表現が作品全体にどのような意味や効果をもっているか、適切に判断することができる。 ○事象や行為を表す語彙(副詞)について、その意味を正しく理解している。 ●自分の考えを述べたり、文章を修正したりするような記述式の問題での無回答率が県や国より高い傾向がある。 ●同音異義語や紛らわしい漢字の知識が定着していない。	・自分の考えを適切に相手に伝える活動を継続して行う。 ・様々な「書く」活動を取り入れ、文章を推敲する時間を確保し、正しい構造の文や正しく適切な漢字を書けるようにする。 ・物語の読解では、言葉にこだわり、さらに深く読み込めるよう指導する。
数学	○ことばの意味理解や、一問一答式に答えを求める問題の正答率が高い。 ●数量を文字を用いた式で表す問題や、式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する問題の正答率が低い傾向にある。 ●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題の無解答率が高い傾向にある。	・今後も、週末課題や小テストで、基本的な知識・技能の定着を図る。 ・文章問題を取り組む際には、問題を理解すること、解決方法の見通しを立てること、適切に答えを求めること、解決の過程を振り返ることを意識できるよう指導する。
理科	○探究の過程について、学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いている。 ○実験器具の操作等に関する技能が身に付いている。 ●身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できる項目についての無回答率が高い。 ●探究の過程で生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できる項目についての無回答率が高い。	・生徒が疑問に思い、探究の課題を設定できるような導入を授業に取り入れる。 ・探究の過程を振り返るような時間を授業時に設定する。

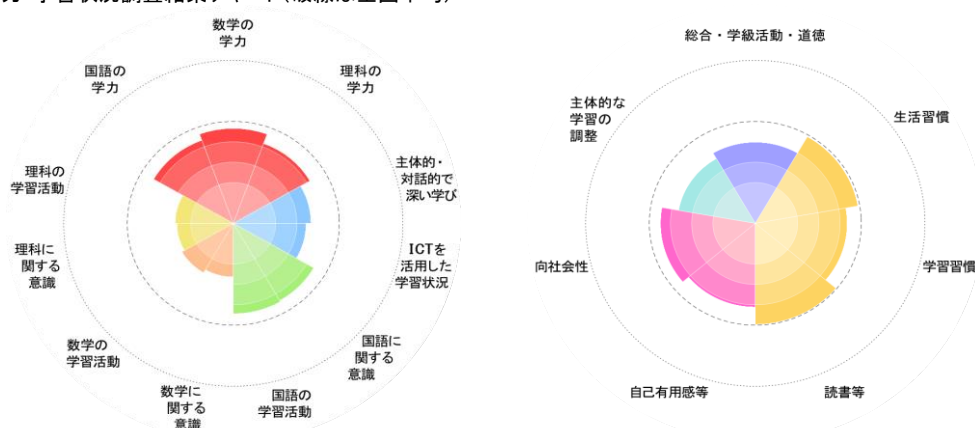
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○教職員や地域の大人からの肯定的な関わりを感じ取っている生徒の割合が全国平均と比較して高い。 ●将来の夢や目標をもっている生徒の割合が半数以下である。 ●教科の学習について、普段の生活に活用できていると感じている生徒の割合が、全国平均と比較して低い。	・大人との関わりを通じて将来への明るい展望がもてるよう、進路意識につながるような対話や声かけを、日ごろから教職員全体で意識的に行う。 ・教科を問わず、学習内容の生活への活かし方について意識づけるような学習活動や振り返り、声かけを行う。

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・学校の教職員が肯定的に生徒と関わることや、公民館を軸とした学校と地域との連携を継続していく。 ・生徒の実態に関して教職員全体で共通認識を図り、共通の目標を意識しながら、さまざまな立場から生徒に関わる。
------	--

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

63

名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

